

第6回

シリーズ「霊的集団の誤りを正す」第3弾

ともひさ
太田朝久

駒場集団の言説の誤り

本講座では、霊的集団「李勝哲・駒場久美子集団」の言説の誤りを取り上げます。彼らは、16万訪談セミナーのみ言などを自分勝手に解釈し、自分たちの活動を正当化しようとしています。彼らの「誤った言説」を文鮮明先生のみ言を中心に正しながら、私たちが持つべき正統的な信仰とは何かについて説明します。KMS会員とAPT F会員は動画版シリーズ「霊的集団の誤りを正す」第3弾を、KMSウェブサイトで見聴できます。第1弾、第2弾も併せてご覧ください。
(編集部)

十一、「人間の責任分担としての
み言の摂理が必要」と主張する誤り

駒場集団は、「聖霊により」新しいみ言が現れると主張しています。彼らの資料には次のように記されています。

「メシヤと一つになることができなければ……新しいみ言が現われて、み言を絶対信仰し、順従しながら進むみ言の摂理が必要です。……人間の責任分担としてのみ言の摂理が必要になります。このみ言を、聖霊のみ言」と言います。

しかしイエスが語り得ず、心の中に抱いたまま亡くなられたそのみ言は、永遠に秘密として残されるのではなく、『真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう』(ヨハネ一六・13)と続いて言われたように、そのみ言は必ず聖霊により、新しい真理として教えてくださるようになっていくのである。原理講論171(駒場資料、七四七五ページ)

駒場集団は、メシヤと一体となれないとき、人間の責任分担としてのみ言の摂理が必要になり、それが「聖霊のみ言」であると主張します。しかし、「聖霊のみ言」を主張すること自体が誤りです。この点については、既に本シリーズ第2回の「一、『メシヤのみ言』以外に、『聖霊のみ言』が必要と主張する誤り」において論じました。み言を解明されるのは、メシヤであられる真のお父様以外におられません。

ところが、駒場集団は、メシヤが解明されたみ言以外に、「聖霊のみ言」が現れるというその根拠として、ヨハネによる福音書一六章13節を引用して論じた『原理講論』一七一ページの「そのみ言は必ず聖霊により、新しい真理として教えてくださる」を引用します。

これはとんでもない思い込みであり、誤りです。イエス様は、御霊が「別のみ言」をもって来ると語っておられるのではなく、御霊は「わたし(イエス)のものを受けて……知らせる」と言っているのだから、も一つ別の「聖霊のみ言」が現れるとい

うではありません。【図1】

『原理講論』の続きを読むと、ヨハネの黙示録五章1節から5節が引用されており、その結論として、「キリストが人類の前で、長らく七つの印をもって封じ、秘密として残されていたそのみ言の封印を開き、信徒たちに新しい真理のみ言として与えてくださるときが到来しなければならぬ」(一七一一七ページ)と解説されています。すなわち、ここで論じられていることは、再臨されるキリストが「新しい真理」を解

真理の御霊(聖霊)が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく……わたし(イエス)のものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。……御霊はわたし(イエス)のものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだ……

(ヨハネ16・13~15)

図1

明し発表されるといふことであり、「聖霊のみ言」が現れるといふではありません。駒場集団は、「そのみ言は必ず聖霊により、新しい真理として教えてくださる」を勘違いして読んでいます。真のお父様は、次のように語っておられます。

「伝統はただ一つ！ 真のお父様を中心として！ 他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけません。先生が教えた御言と先生の原理の御言以外には、どんな話にも従ってはならないのです。……他の言葉も述べるのを許しません。……どのような御言も、第二の御言を許しません」(『祝福』一九九五年夏季号、六八ページ)

「聖霊のみ言」が現れると説き、それを信奉する駒場集団は、真のお父様が「第二の御言を許しません」と語られた警告のみ言に背く群れです。

十二、駒場集団の最大の誤りは、「分裂行動」を取っていること

駒場集団は、次のように主張しています。

「人間の責任分担は積極的にしなければならぬことであり、神様の見えない性的な95%の愛を探して実体化しなければならぬ」ということは、メシヤと心情一体を成して、共に神様の愛を中心とした生活をするので完成することを言います。……メシヤと心情一体になれば共に生活すること完成するようになります」(駒場資料、七四ページ)

駒場集団は、メシヤとの心情一体化の重要性を訴えますが、そのように述べつつも、実際には、真のお父様が最も心配しておられた「分裂行動」を取っている点で、問題あり」と言わざるをえません。

ある人は、駒場久美子氏に対し「彼女はいい人だ」と評します。その理由は、「教会をお休みしている人や、分派に流れた人を訪ねてケアしているからだ」というのです。教会をお休みしている人や、分派に流れた人を訪ねてケアし、牧会することは必要です。しかし、彼女は、その人たちが教



1960年3月21日(陽4.16)3双の祝福結婚

会につなげようと努力するのではなく、駒場集団の誤った言説を信じ込ませ、自分たちの集団に所属させようとしています。そして、彼ら独自の「三日式」「聖和式」と称する儀式に参加させ、やがてその人を教会と敵対する立場に立たせるのです。

『原理講論』には、その人が神側に立つ人が、サタン側に立つ人かについて、次のように説明されています。

「天(神)の側とサタンの側との区別は神の復帰摂理の方向を基準として決定される。神の復帰摂理の方向と同じ……方向に同調する立場をとるときこれを天の側とい、これと反対になる立場をサタンの側という。ゆえに、天の側であるとかサタンの側であるというのは、我々の常識や良心による判断と必ずしも一致するものとはいえない」(五四一ページ)

統一教会の祝福家庭は、真の父母様の血統につなかって広がっていく。一つの血統です。

すなわち、人間始祖アダム・エバの墮落

で失った神の血統を取り戻すため、真のお父様(文鮮明先生)と真のお母様(韓鶴子夫人)が苦難の路程を勝利され、天の父母様(神様)から「真の父母」としての印を押され、そこから始まる「神の血統」につながったのが祝福家庭なのです。

「人類歴史上初めて、失われたアダムの位置を探し立て、真の愛の主人の位置を確保し、神様から人類の真の父母として印を押されて顕現したレバランド・ムーンが、きょう、皆様と同時代圏に生き、同じ空気を呼吸しているという事実は、奇跡の中の奇跡にほかなりません。……人類は今、これほどまで執拗(しつぱう)に苦しめられてきたサタンの偽りの血統を果敢に断ち切り、真の父母様の真の血統の根に接ぎ木されなければなりません」(天一国経典『平和經』六二四ページ)

天国は、一九六〇年から始まった「祝福結婚」により、真の父母様の血統を根として拡大する血統を基盤に実現されていくことを知らなければなりません。【図2】真

「統一教会の文先生は、夜も休まず、寝

ずに続けて仕事をしています。このように休まない限り、統一教会は発展しているのです。……統一教会は根が深いので、誰も引き抜くことができません。それは先生自身も引き抜くことができないのです。また、神様も引き抜けないのです。……根が一番深いところは統一教会です」(『牧会者の道』五九六ページ)

「先生一人を中心として、サタン世界と、天の世界が問題となっています。統一教会

を中心として、これが問題となっています。……統一教会が発展するほど、サタン世界は滅んでいくのです」(同、六〇三ページ)

真のお父様は、統一教会は「神様も引き抜けないほど根が深い」統一教会が発展するほど、サタン世界は滅んでいく」と語っておられます。もし、統一教会をお休みしている人がいるならば、真の父母様を根として広がる教会につなげていくことが重要です。真のお父様は、次のように述べられておられます。

「これからは、先生が本部から指示を伝えます。そして、全世界の統一教会の教会員たちは、一律的に同じ日の同じ時刻に『訓誥会』をするのです。……なぜ、このような伝統を立てるのかというと……先生が霊界に行く時間も遠くないので、地上でこのような伝統を立てておくことによつて、混乱した世の中を導いていくことのできる道を決めるためです」(『ファミリー』一九九九年十二月号、二六二―二七二ページ)

のお父様は、次のように語っておられます。

「再臨主はイエス様が果たせなかつた神様の復帰摂理の根本を完成するために来られます。……彼が果たせなかつた新婦を探し出し、真の父母になられ、万民を救ってくださるのです。それゆえ、真の父母は血統を伝授する新しい結婚行事を通じ……真の血統に接ぎ木して……地上天国を建設なさるのです。……新しい血統関係を編成しようとするのであり、これが国際合同結婚式なのです」(『祝福家庭と理想天国』(一)』四一―四二ページ)

『原理講論』に、「地上天国は、完成した人間一人の姿と同じ世界である」(四八六ページ)とあるように、私たち祝福家庭は、人間一人の人体構造に似た「一つの血統」として増え広がって天国を建設するということです。その根は、「平和の主人、血統の主人」であられる真の父母です。真のお父様は、統一教会について次のように語っておられます。

また、真のお父様は、「先生が霊界に行つたとしても、お母様が地上にいれば、霊界と地上界の統一圏ができるので、いつでもお母様がいる地上に来て一緒に暮らすことができる」(『真の父母の絶対価値と氏族的メシヤの道』一一七ページ)と語っておられました。

今の時代は、真の父母が根である教会につながり、真のお父様と「最終一体」を成された真のお母様を中心に信仰生活を歩むことが、天の父母様の願いであることをはっきり自覚しなければなりません。

ところが、教会をお休みしている人を正しくケアせず、真のお母様の価値については全く証しせず、統一教会に連結もしないで、むしろ別の主体に立ち、真のお父様が語ってもおられない「神様の見えない性相的な95%の愛」とか「95対5の法則」などという「聖霊のみ言」(第二の御言)なるものを語ることは許されません。真の父母様を根とする教会に敵対する、この「分裂行動」を取ることが、彼らの最大の誤りです。